

「日本維新の会の足立議員が森友学園問題の引き金は大阪であることを批判していましたが？」

平成 29 年 4 月 11 日

●三毛猫さんからの質問

ある国会の質疑で日本維新の会の足立議員が西田先生のもりとも学園問題の引き金は大阪であることを公然と批判していましたがこの事件の根本的な要因は大阪の規制緩和政策にあると感じますが足立議員の発言は的はずれではないと感じます！大阪都構想＝規制緩和ではないでしょうか？地方分権政策をまたづろ出しでくる日本維新の会には違和感を感じます！西田先生の意見をお聞かせください！

●西田昌司の答え

私も足立議員の質疑（平成 29 年 4 月 4 日の衆議院財務金融委員会）を見ましたが、的外れと言うよりも哀れを誘う内容でした。規制緩和を是とする日本維新の会の立場からすると、森友事件の根本には誤った規制緩和の発想があるのだ、と正しく指摘する私が疎ましいのでしょうか。人間、痛いところを突かれると過剰反応するものですが、足立議員と私のどちらが正しいかについてはエビデンスを見て頂ければ明らかであります。

幼稚園だけを経営する森友学園のような学校法人が小学校を設置することを大阪府は禁じていたのですが、森友学園からそのような規制を緩和するよう要望が出されて規制緩和がなされたことが森友事件の発端です。幼稚園だけを経営するような学校法人では財政力に余裕がなくて小学校の経営などできないだろうとの判断からそのような規制がされてきたのですし、実際、森友学園は経営基盤が不安定で幼稚園の定員に対して 5 割くらいしか在園者がおらずに幼稚園の経営すらも危ぶまれていました。そんな森友学園がさらに

借金をして小学校を設置するなどはそもそも無理な話だったのです。

森友学園が集めた寄付金は何十億円もあったのであれば話は別ですが、小学校の建設を請け負った業者が総額約 24 億円のうち約 20 億円が未払いだとして森友学園を提訴していることから、必要な寄付金が集まっていなかったことは明白です。普通、このようなケースでは行政側が小学校設置を認可しないはずなのですが、それを条件付きとはいえども認可適当としてしまったのが最大の問題です。そして、その判断をしたのが大阪府私学審議会なのです。

大阪府私学審議会のある会長さんが「我々は条件付きの認可をしたのだし、途中でまずいと判断すれば即座に止めるのだから、我々に落ち度はない」と言った発言をされたようですが、これこそ無責任極まりなく言語道断です。認可をしたために 20 億円以上の費用をかけて小学校が建設されたのですし、そしてその計画が無謀だったゆえに森友学園の支払不能という当たり前の結果となっているのです。途中でゴミが出てきたから土地を安くすると言ったことがあろうがなかろうが、この小学校は潰れるよりほかなかったでしょう。結局、籠池さんは加害者であるとともに被害者でもありますし、共犯者は大阪府であることを忘れてはなりません。

足立議員と私のどちらが正しいかについては、皆様の賢明な判断にお任せします。

反訳：ウッキーさん

Copyright : 週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>